事務量が多く忙しかったと思います。もっと、児童生徒の情報交換、ケース会議、教育計画や評価の話し合い、教材研究、授業の準備など通常の仕事を初任研に当てられるようにすると実務と直結して実践力につながると思います。

・教員は「見て、気づいて、自分でイメージして、考えて、マネて、実行して・・・etc」で多くのことを学んでいくので児童の変化が見られない（見せることのできない）拠点校指導員はまったくの無駄だと思います，知識や注意で育つものじゃないと思いますので。

・合計300時間はなかなか取りづらく、（全体、出張、会議）2，3日はバタバタたくさんつめてとる状態だった。しかし、クラス内での担当なので、「指導日」という枠にとらわれることなく毎日が研修という形ではない実践研修ということですぐに活かせ、すぐに反省でき、すぐに改善できてよかったと思う。一人指導担当ということもなく、クラスの他の教員達も当然のように指導教官のような形で関わっていくからとてもやりやすかった。ただ、書類はとても面倒で、あまり意味を感じなかった。新採用の人の計画、報告だけで充分だと思った。指導教官の分はいらないのでは・・・。

・大変だけど意義のある研修ではあったが、補填ではいる非常勤が大学を出たばかりだったので、補填教員を指導する必要も出てきて、クラス内は混乱気味だったように思う。次年度の臨任を育てている感じだった。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。